2017年3月29日 ご参考資料

楽読（ラクヨミ） Vol. 1,205

Raku Yomi

楽読（ラクヨミ）

拡大するフィンテック
～ビジネスも投資も今がチャンス!?～

nikko am fund academy

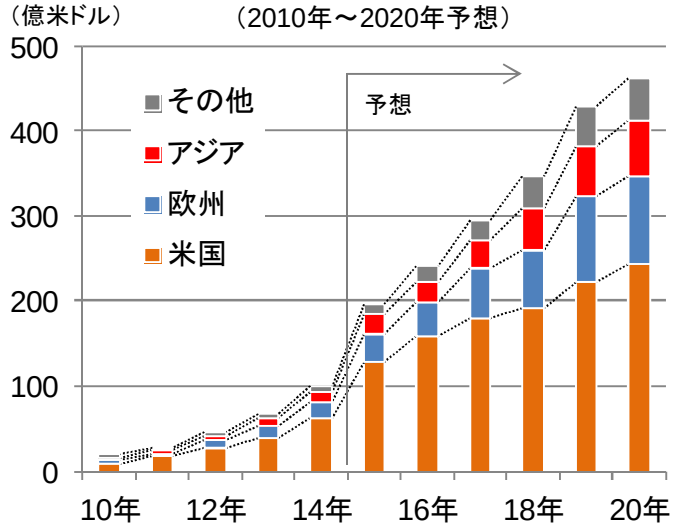
近年、モバイル決済、オンライン融資、仮想通貨、ロボ・アドバイザー（投資助言）など、フィンテック（FinanceとTechnologyの造語）といわれる、従来の金融機関があまり提供してこなかった新しい金融サービスが次々と誕生しています。フィンテックは米国が先行しており、投資額は2010年からの5年間で10倍以上、さらに15年から20年にかけて倍増することが予想されています。

分野別（投資金額ベース）にみると、融資や決済といった事業が中心となっています。例えば、融資分野では、インターネットを通じて貸し手と借り手を結びつけ、多数の投資家から比較的少額で資金を集めるサービスがあります。融資の審査にあたっては、クラウド会計サービスやEコマースなどのデータを活用して与信判断を実施するなど、オンライン上で効率的に審査を行なうことにより、既存の融資に比べて短期間で借り入れを行なうことが可能となっています。

決済分野では、クレジットカードを介さないモバイル決済に加え、利用者同士でリアルタイム送金が可能となるサービスや、事業者向けに、タブレットなどへ小型の読み取り機を装着して、簡単にクレジットカード決済端末、POSの代わりとなるサービスなどがあります。地域別にみると、米国や中国などでモバイル決済が大きく伸びています。特に中国では、銀行口座からお金をチャージしておけば、日常的に使用する決済や送金、および高利率の預入れなどが行なえるサービスをEコマース大手が提供し、爆発的な勢いで普及しています。また、インドでは、高額紙幣廃止後の現金不足を契機に、QRコードを使うモバイル決済サービスが急拡大しており、現金中心の経済からデジタル経済への移行が急速に進んでいるとみられます。

フィンテックは、利用者にとってより利便性が高く、効率的なサービスを提供すれば、爆発的に普及する可能性を秘めており、世界の金融サービスを大きく進化させる可能性があります。今はまさにフィンテック黎明期といえ、投資家にとって、革新的なサービスを提供する企業に投資するチャンスとも考えられます。

世界のフィンテック分野への投資額の推移



出所：Market Research.com「Five Banking Innovations from Five Continents: USA, Europe, Asia, Africa, Australia」

※上記は過去のものおよび予想であり、将来を約束するものではありません。

（ご参考）フィンテックの各分野

分野	主な内容
決済・送金	・モバイルを用いた、個人の決済や、事業者向けのPOSなどのサービス ・リアルタイム送金
融資	・オンライン上で融資を仲介するなど、スモールビジネス向けの融資サービス
投資助言	・個人投資家へのポートフォリオ作成サービス ・フィナンシャルアドバイザー向けの対話型投資助言サービス
資産管理	・クラウドを利用した、銀行口座やクレジットカードなどの情報の一元管理サービス

※上図は例であり実際とは異なる場合があります。

信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成

日興アセットマネジメント

■当資料は、日興アセットマネジメントが市況等についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産には為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。